

奥州街道宿場町

宿場町から  
新たな未来を

富谷

しんまち

VOL.7

かわら版

開宿400年を迎える今年  
しんまち活性化協議会も  
盛り上がって活動しています。

開宿400年にあわせ「おめでたい」ということで「祝場町」としてブランドアップ。「[いわい]から「にぎわい・なりわい・さいわい」をテーマに新たなまちづくりを行っていきます。



「とみやど」にどんな機能が  
あったらいいか?をみんなで

宿場町を描いた『東海道五十三次』という浮世絵を観たことがありますか?馬の背に荷物を積み替えていたり、旅人同士が茶屋でわいわい話をしていたり…。しんまちでもこんな風景があったのでは?と、400年の時を超えて想像も膨らみます。

そんな風景を再興するために生まれるのが富谷宿観光交流ステーション「とみやど」。施設内にハチミツやジェラートのショップや、内ヶ崎作三郎氏の業績を伝える記念館ができることが決定していますが、「それ以外にどんなことができるか?」と、今年度最初のしんまち活性化協議会でアイデア出しのワークショップを実施しました。

「当時のおもてなしを復刻したらどうか?」「醤油作りワークショップが楽しそう!」「馬、着物、人力車、カゴなどの体験がしたい!」「とみや検定があったら楽しいのでは?」「情報発信のためのTV局やラジオ局があってもいい!」と楽しいアイデアが出ました。みんなの期待感と同時に、新しい交流施設としての可能性も広がっています。



未来交流を考える!  
「とみとも」も加わって交流の輪を!

新聞にも取り上げられましたので、知っている方も多いと思いますが、今年度より、富谷市に中戸亮さん、井上稚子さん、佐京菜里さんという3名の地域おこし協力隊が加わりました。すてきな愛称は「とみとも」。ともに富谷市をつくりたい「友だちのように地域の方々」と垣根なく意見交換や交流がしたいという意味を込めて命名!楽しいyoutube配信をしてくれているので、ぜひご覧くださいね。あとチャンネル登録もぜひ!

この「とみとも」は「出会い」になる未来交流グループを中心に活動。「とみやど」を核に、交流の輪を広げていく斬新な発想の取り組みに期待したいですね!



宮城県富谷市  
地域おこし協力隊  
とみともチャンネル



# 歩きたくなる街並みづくりへ 文化や歴史の掘り起こしも



「歩きたくなるまち」を目指し  
美しい竹あかりイベント実施

おめでたいといえば、日本古来の「松・竹・梅」。富谷市には代官松もありますし、富ヶ岡公園には復活した梅林もあります。となれば、あとは「竹」です！

「竹」をテーマにまちづくりができないか？というところで始まったのが、「はにかむ富谷」と歩きたくなる環境整備グループで進めている「竹あかり」です。

竹林から竹を切り出し、デザインにあわせて電動ドリルで穴を開けていき、赤や青などのLED電球で灯りをとします。7月23日のはじめての点灯式では、「とみやど」の敷地で約30点の灯りがとると、「わー、花火だー」「涼しげですてきー」と感嘆の声が上がりました。

お盆の3日間には、熊野神社、町公会館、JA駐車場で点灯。迎え火や送り火の思い出などを語り合う輪ができ、「新しいお盆の飾りねー」という声もあがりました。

「竹切り」は竹林の整備にもつながりますし、使い終わった竹は炭やパウダーにして土に返すという、「自然の循環」を意識して作業しています。

「富谷の竹あかり」は、まだ始まったばかり。市民参加で、市民に愛される「竹あかり」にしていきたいと考えています。

「内ヶ崎作三郎氏の紙芝居づくりと富谷の歴史カルタづくりも着々と

尾崎士朗作の「人生劇場」の中で「ズーゾー弁のために、バアナード・シヨウを『バアナード・ヒヨウ』と発音していた」と紹介されている我らが地元の偉人「内ヶ崎作三郎」。この醤油屋の5代目にして、宗教・政治・教育で偉業を残した地元の偉人「内ヶ崎作三郎」ものがたり」の紙芝居をつくっているのが「学びたくなる文化歴史グループ」。

「どんなエピソードを載せたらユーモアと人情味にあふれる人物像を描くことができるか」と、現在メンバーみんなで思案中です。

紙芝居の実演やかるた取り大会などの体験を通して次世代の人たちに楽しく知ってもらおうと考えています。ご期待ください。



しんまちのさまざまな話題を発信！  
富谷しんまちの情報発信Webサイト  
<https://shinmachi-tomiya.com>